

庄内
町旅

笑顔あふれ
うるおい満ちる
めぐりあいの旅

＝第3次庄内町観光振興計画＝

平成30年3月 庄内町・庄内町観光協会

目次

計画の全体像	P 2
第1章 計画の策定にあたって	P 3
1 計画策定の趣旨	
2 計画期間	
3 計画の位置づけ	
第2章 観光の目標像・視点	P 4
1 観光の目標像	
2 策定の視点	
第3章 具体的施策	
戦略1 おもてなしのマインドづくり	P 6
(1) おもてなしの意識（心）の向上	
(2) 郷土意識の醸成	
(3) 観光交流の担い手づくり	
戦略2 多様な観光の魅力づくり	P 7
(1) 地域資源の積極的な活用	
(2) 滞在交流型観光メニューの開発	
戦略3 稼げる観光産業づくり	P 10
(1) 商工会との連携による観光振興	
(2) 地域資源を活用した特産品開発	
(3) 宿泊施設の拡充	
(4) 広域での観光連携	
戦略4 訪れたい環境づくり	P 12
(1) 観光プロモーションの推進	
(2) インバウンドの誘客促進	
(3) 観光地としての基盤整備	
(4) 観光拠点の整備・充実及び組織体制の強化	
第4章 計画の目標と進捗管理	P 14
付属資料	
1 SWOT分析	P 15
2 庄内町観光振興の課題	P 16
3 第2次庄内町観光振興計画主要施策検討資料	P 17
4 観光を取り巻く社会情勢	P 21
5 策定経過	P 26
6 観光振興計画策定部会委員名簿	P 27
7 参照／用語解説	P 28

計画の全体像

観光の目標像

“庄内町旅”

～笑顔あふれ うるおい満ちる めぐりあいの旅～

策定の
視点

- <視点1> おもてなしの観光地づくり
- <視点2> 五感で楽しむ町旅づくり
- <視点3> 稼げる観光産業づくり
- <視点4> わかりやすく魅力あふれる情報発信

4つの
戦略

<戦略1> おもてなしのマインドづくり

- (1) おもてなしの意識（心）の向上
- (2) 郷土意識の醸成
- (3) 観光交流の担い手づくり

<戦略2> 多様な観光の魅力づくり

- (1) 地域資源の積極的な活用
- (2) 滞在交流型観光メニューの開発

<戦略3> 稼げる観光産業づくり

- (1) 商工会との連携による観光振興
- (2) 地域資源を活用した特産品開発
- (3) 宿泊施設の拡充
- (4) 広域での観光連携

<戦略4> 訪れたい環境づくり

- (1) 観光プロモーションの推進
- (2) インバウンドの誘客促進
- (3) 観光地としての基盤整備
- (4) 観光拠点の整備・充実及び組織体制の強化

目標
観光交流人口
H34年度 95万人
(観光振興計画最終年度)
H37年度 100万人
(総合計画最終年度)

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

観光は、人口減少社会を迎えた我が国において、交流人口の拡大をもたらすとともに、大きな経済効果を生み出す産業として、かつ、地域活性化の切り札として期待されています。庄内町の観光は、平成25年3月に策定した第2次庄内町観光振興計画「月山山頂の町 “清流の恵みを受けた豊かな食文化の里を目指して”」のもと、5年間にわたり地域活性化へつながる観光施策に取り組んできました。その間、国、県においても積極的な観光振興の取り組みが行われ、国が推進するビジット・ジャパン事業により、訪日外国人旅行者は国の想定を超えた伸び率を示し、平成28年3月には「観光先進国」への新たな国づくりに向けて「明日の日本を支える観光ビジョン」が策定されたところです。

国内においては、観光に求めるニーズが多様化し、特に地域の様々な観光資源を活用した体験・交流を中心とした滞在交流型観光の推進が図られ、全国で誘致合戦が行われています。

また、山形県庄内地域においては、日本遺産に認定された「出羽三山～生まれかわりの旅～」や「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」、上越新幹線、羽越本線の新潟駅での同一ホーム乗換え、平成31年度「新潟・庄内デスティネーションキャンペーン」の開催など、県内外から注目されており、この好機を逃すことなく、広域周遊の企画などに取り組む必要があります。

そのため、「庄内町総合計画」の基本計画に掲げる観光交流人口100万人を目指し、住民、事業者、行政、関係団体などが力を合わせ、本町の観光資源のさらなる魅力向上や受入態勢を整え、地域経済の振興を図り、持続可能な観光によるまちづくりを推進するため、第3次「庄内町観光振興計画」を策定します。

2 計画期間

本計画は、観光振興を取り巻く急激な状況変化に対応するため、平成30年4月から平成35年3月までの5年間の計画とし、平成34年度には新たな観光振興計画の策定に向けて検討します。

3 計画の位置づけ

本計画は、本町の目指す将来像の実現のための観光振興における基本方針と具体的施策について示すものであり、平成28年度に策定された第2次庄内町総合計画の分野別計画として位置づけます。

第2章 観光の目標像・視点

1 観光の目標像

“庄内町旅”～笑顔あふれ うるおい満ちる めぐりあいの旅～

これからの観光に望まれることは、観光によって地域の魅力が向上し、外からの来訪者を増やすとともに、町内での滞在時間を伸ばすことにより地域内消費を拡大し、地域経済の活性化に結び付けていくことです。

地域の魅力が向上するためには、住民が庄内町の魅力に気づき、庄内町を自慢・誇りに思い、楽しみ、笑顔になることです。そのような笑顔の住民が来訪者をもてなす町は、他地域から多くの人を惹きつけ、交流を通して、町を訪れた人は「笑顔」になって帰ることができます。また、観光客が旅先に求めるものは“そこにしかないもの”。庄内町の多彩な観光資源や優しく温かな人達とめぐりあい、体験・交流を通して満足感を得ることで、庄内町のファンが生まれていく。このような経済と人の好循環を創り出すことが「庄内町旅」には期待できます。

来訪者だけでなく住民自らが「庄内町らしさ」に気づき、「住んでよし 訪れてよし」と思えるような誇りと愛着を感じてもらうことを目指します。

2 策定の視点

1 おもてなしの観光地づくり

庄内町が持続的に観光でのまちづくりを推進していくために、何よりも大切なものは「人の魅力」です。その魅力を十分に発揮してもらえよう体制づくりや、新たな「おもてなし人材」を発掘するためには、まずは住民の皆さんに庄内町を知ってもらう、好きになってもらう、仲間を作ってもらう仕掛けが必要です。

おもてなしの心を持って来訪者を迎え入れることができるよう、住民や観光関連事業者等の意識啓発や人材育成を図ります。また、誰が訪れても安心して快適に過ごせるよう、観光施設等の環境整備を進めます。

2 五感で楽しむ町旅づくり

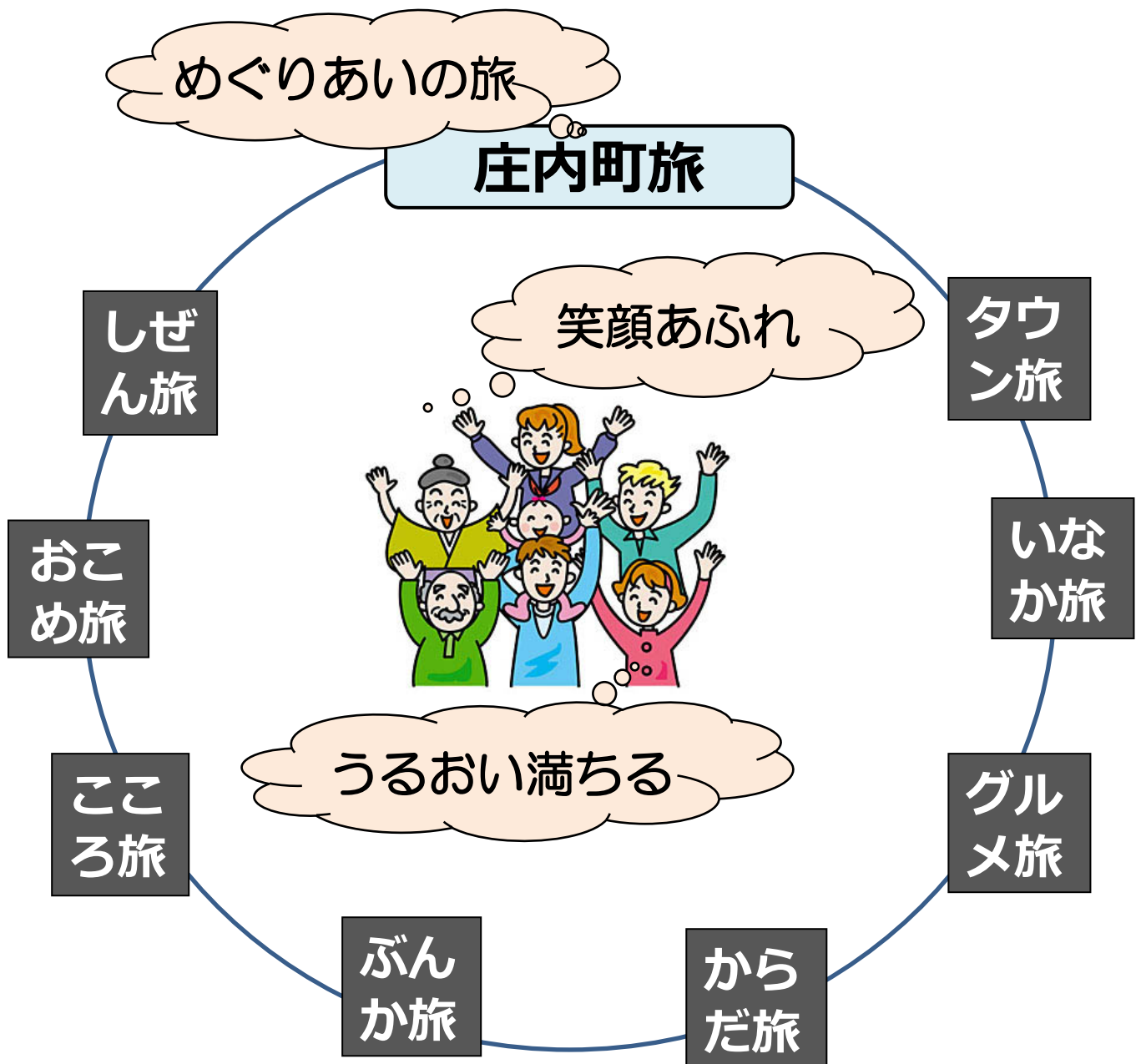
今、観光に求められているものの一つに体験と交流があります。本町は「自然豊かな立谷沢」、「歴史の里清川」、「風薫る狩川」、「商人のまち余目」など、地域性に富んだ魅力的な観光資源に恵まれています。この観光資源を活用した「庄内町らしさを五感で体験できる観光」の確立に向け、五感で楽しめる仕掛けを随所に設けることで、心の豊かさを満喫できる観光環境づくりを目指します。

3 稼げる観光産業づくり

観光産業と異業種との連携により、庄内町でしか体験できない観光メニューを充実させ、広域連携での周遊観光により滞在時間を延ばし、地域内消費につなげ稼げる観光を目指します。また、庄内町ならではの土産品や逸品等特産品の開発・PR・販売、郷土料理をはじめバラエティに富んだ飲食店との連携を行い「庄内町の食」を味わってもらい、ファンづくりに努めます。

4 わかりやすく魅力あふれる情報発信づくり

庄内町の魅力を多くの人々に伝え、訪問していただくために、様々な手段を組み合わせ、幅の広い観光PR活動を展開し、誰にとっても、わかりやすく魅力あふれる情報発信を目指します。



第3章 具体的施策

<戦略1> おもてなしの mindset づくり

(1) おもてなしの意識（心）の向上

来訪者を心から歓迎する笑顔、挨拶、声掛け等により温かく迎える「おもてなしの心」が大事であり、「来てよかった、また行きたい」と思えるようなおもてなしのまちづくりを推進します。

アクションプラン (テーマ) 「あいさつ運動」で来訪者を迎えよう

【新規】あいさつ運動の推進

- ・来訪者に対して「よくきたの～」の声掛けをすることは、おもてなしの第一歩
- ・商工会や学校と連携した町ぐるみでの「あいさつ運動」を展開する。

【継続】観光ボランティアの充実

- ・地域のまつり、イベントへの参加や観光地の環境整備等積極的なボランティア活動を促すことで、まちづくりへの意識醸成を図る。

(2) 郷土意識の醸成

観光資源の魅力を来訪者に紹介するためには、まずは住民自らが郷土の歴史や文化、自然などについて理解を深め、その素晴らしさを知る必要があることから、学習の機会を提供するとともに、積極的な情報発信を行います。

アクションプラン (テーマ) 1人3つは庄内町の自慢を言えるようにしよう

【新規】郷土意識の醸成

- ・住民を対象にした観光資源を知ってもらう講座を開催する。
- ・住民への積極的な観光情報発信を行う。
- ・小中高生に対するふるさと学習の充実を図る。

(3) 観光交流の担い手づくり

観光交流の担い手として、自然体験や農業体験、ものづくり体験等の体験型観光のインストラクターや、地域の自然、歴史、文化を案内する観光ガイドを養成します。

アクションプラン (テーマ) 誰もが観光案内人

【拡充】体験型観光のインストラクターの養成、活用

- ・登山ガイドや山岳ガイド、自然ガイド等自然活動インストラクターの養成を図る。
- ・農業体験、工芸体験、食体験等指導者の発掘、活用する。
- ・「なんでも」名人、達人の発掘、活用する。

【継続】ガイドの養成・活用

- ・ガイド研修（先進地視察、ガイド技術の研鑽、インバウンドガイド養成等）の継続的実施やガイドの会へ支援する。
- ・まち歩き等でのガイド同行、道の駅しょうないでのガイドによる観光案内など、ガイド活動をPRし、ガイドの会への参加を促す。
- ・庄内総合高校や東北公益文科大学等、学生による観光ガイドとしての人材育成を図る。

【新規】観光関連事業者の担い手育成

- ・観光事業の持続的な展開を図るため、観光関連事業者の担い手育成等への支援を行う。

<戦略 2> 多様な観光の魅力づくり

本町には「自然豊かな立谷沢」、「歴史の里清川」、「風薫る狩川」、「商人のまち余目」などの特色があり、各々の地域性を保ちながら遙かなる時の物語を今に紡いできました。多様な地域資源を有機的に活用し、その特徴を活かした観光振興策を考えていくことが大切です。それぞれのエリア毎、テーマ毎に、観光振興に期待される役割を考え、その実現に向けて地域住民と観光関連事業者等との相互協力、連携により観光によるまちづくりを推進します。

(1) 地域資源の積極的な活用

月山をはじめとした雄大な自然や、歴史・文化、スポーツ施設、地域の人材などの多彩な地域資源を最大限に活用して、テーマ、コンセプト、ストーリー性のある体験型観光メニューを創出します。そのためには、住民自らも地域の観光資源を新たな視点で見直し、本町の魅力に気づくことが大切です。自分たちの地域や町を磨くことで生み出された環境を、住民も来訪者とともに楽しみ、味わい、守り育てていくことを目指します。

アクションプラン

(テーマ) 魅力的な観光資源との“めぐりあい”

①歴史資源・伝統文化資源の活用

歴史の里清川をはじめとした悠久の歴史遺産や日本遺産、産業文化財、伝統工芸など、テーマ、ストーリー性を持たせた体験型メニューづくりを行う。

【新規】立谷沢川流域「龍神」の活用

- 立谷沢川流域に建立された龍神碑や月山龍神マラソン、余目地域の飛龍伝説など「龍」をテーマとした体験型メニューを検討する。

【拡充】歴史の里清川の活用

- 最上川舟運文化、羽黒参拝口、明治維新などの歴史的文化について、H30年度建設予定の清川関所（清川歴史公園整備基本計画Ⅰ期工事）を拠点とした周遊ルートの磨き上げを行い、ガイド付きまち歩きやぶらり散歩を楽しめる環境整備を図る。
- 清川歴史公園整備基本計画（Ⅱ期・Ⅲ期）の実現にむけた地域住民の気運醸成や地域住民との連携を図る。

【継続】狩川城址公園構想の具現化

- 楯山公園、風車村等を一体としてとらえた散策コースや周遊ルートの環境整備、マップ作成やガイド等の受入整備を図る。
- 風車村での風力学習や自然体験、農業体験、遊具等の環境整備及びエネルギーツーリズムの推進を図る。

【継続】産業文化財の活用

- 町内企業などの協力を得ながら、工場見学などの産業ツーリズムの推進を図る。
- 昔ながらの酒蔵、醤油屋などの見学と食をからめたまち歩きを展開する。

【継続】民俗・伝統行事、神社仏閣の活用

- ややまつり、清川山車、神楽、獅子等地域性のある民俗・伝統行事を活用し、誘客のための魅力発掘と情報発信に努める。
- 県・町指定文化財、名刹巡り等を改めて掘り起し、魅力向上や情報発信に努める。

【継続】伝統工芸の活用

- 昔から農村の暮らしの中で育まれてきた「ほうき作り」や「藍染め」などの手仕事を体験するワークショップ等を開催する。

②自然資源の活用

最上川と立谷沢川が雄大に流れる平野部から、月山の頂上までをダイナミックに遊び、学ぶ体験などのメニューづくりや施設の拡充を図る。

【拡充】里山、森林の活用、整備

- 月山登山ツアーや月山8合目弥陀ヶ原等を気軽に楽しめるトレッキングの実施とガイド育成を図る。
- 羽黒古道トレッキング、回天の道トレッキング等歴史文化とのつながりを重視した新たな視点を取り入れたトレッキングに取り組む。
- 砂金堀体験、いわな掴み体験、雪遊び体験など、魅力の向上、受入体制の整備を図る。
- 大中島自然ふれあい館「森森」を活用した自然学習、創作活動、交流活動等を支援する。
- 南部山村広場、玉川ダム広場、北月山荘等周辺の景観整備を行うとともに、アドベンチャー的施設の整備検討を行う。

【新規】身近な自然の活用

- ホタルの里でのホタル育成を通じた環境学習やホタル観賞のできる里の全国に向けたPRを推進する。
- 星空や夜景、庄内平野を眺望できるビュースポットの発掘に努める。

③食文化の活用

庄内町は、稲作の歴史がまち全体に根付いているお米の博物館であり、また、郷土料理、ラーメン店等が軒を連ねるおいしい食文化の里でもある。おいしい食文化を地域の方々と交流し楽しみながら体験できるメニューづくりを行う。

【継続】食文化の活用

- たべびらパスポート事業と連携し、本町食の自慢の一つであるラーメンを「ラーメンの町推進事業」として誘客事業を展開し、観光消費の拡大につなげる。
- おいしいお米のルーツ「亀ノ尾」発祥の里物語を活用したツアーの実施に取り組む。
- 日本一おいしい米コンテストとタイアップした誘客事業を実施する。
- 郷土料理づくり体験の受入整備や積極的PRを推進する。
- 特産物を活用した創作料理めぐりを展開する。

④ニューツーリズムの開発・推進

テーマ性の強い体験型・交流型の観光スタイルへの関心が高まる中、新たなニーズと地域資源を結び付けた体験型メニューを開発する。

【新規】スポーツ・文化ツーリズムの開発・推進

- 東北最大級のコースを常設しているカート場や充実したスポーツ施設、各種スポーツ大会を活用して、他の地域資源や宿泊等とスポーツを組み合わせたツーリズムを推進する。
- 内藤秀因水彩画記念館をはじめ、音楽、演劇、絵画、陶芸等本町の文化をめぐるツーリズムを推進する。

【新規】ヘルスツーリズムの開発・推進

- ・健康づくりを兼ねたまち歩き、トレッキング、森林浴、ヨガ等のメニューづくり、魅力向上に努める。
- ・熟年世代でも安心して散策を楽しめるコース（トイレ・休憩所の設置等）づくりを行う。

【新規】インフラツーリズムの開発・推進

- ・登録有形文化財「六洲砂防堰堤、瀬場砂防堰堤」など、暮らしや安全を支えるインフラを見て、触れて、学ぶインフラツーリズムを、関係機関と連携しながら実施する。

⑤四季のイベントの魅力向上

現在実施している様々な四季のイベントの見直しを行い、魅力向上に努める。

(2) 滞在交流型観光メニューの開発

近年の観光スタイルが、従来の「物見遊山」的なものから、現地での体験や交流を重視するものに変化してきていることから、地域と人々から学ぶこと、触れ合うことが観光の大きな魅力となっています。庄内町ならではの交流を大事にした滞在交流型観光を推進します。

アクションプラン

(テーマ) “ホンモノ” を伝える地域の人々との交流

①グリーン・ツーリズムの推進

庄内町グリーン・ツーリズム推進協議会と連携し自然、文化、地域の人々との交流機会をつくり、庄内町ならではの五感で楽しむ体験・交流型メニューづくりを行い、新たな産業の創出を推進する。

【拡充】農山村体験事業の展開

- ・中学生、高校生を対象とした教育旅行の継続的な誘致、受入体制の整備及び積極的プロモーション活動を展開する。
- ・農業体験プログラムの整備と受入体制の整備を図る。

【拡充】民泊・民宿許可取得の支援

- ・受入側の民泊家庭の確保に努める。
- ・民宿（簡易宿所）営業許可取得の支援（研修会の開催等）を図る。

【拡充】各種団体研修向けプログラムの開発・実施

- ・企業研修、その他団体研修の受入れプログラムの開発及び実施に努める。

【新規】「人」の交流の活用

- ・来訪者が旅先で最も心に残るものは「地元の方との触れ合い」である。観光資源の磨き上げだけでなく、人との交流により満足度を高めることでリピーターづくりにつなげることができる。「私に会いに来て」という気持ちで受け入れてくれる気運醸成に努める。

②宿泊型体験メニューの開発

宿泊をして体験する星空観賞会やホテル観賞会、野菜の朝採りなどの早朝や夜間の体験など、庄内町でしか体験できない行事と宿泊をセットにしたメニュー開発を検討する。
音楽、スポーツ、サミット等本町施設を活用したコンベンションの誘致を推進する。

<戦略3> 稼げる観光産業づくり

観光産業は観光にかかわるすべての産業であり、その観光産業を潤すためには「観光収入」を増やす取組みを行う必要があります。

観光収入を増やすためには「観光客数×消費単価×域内調達率」の3つの要素をバランスよく高めることが重要であり、そこから生まれた経済効果は地域内の幅広い産業へ波及させることができます。特に「地場産品を積極的に活用すること」が重要であり、観光客を惹きつける「そこにしかないもの」を活かした観光メニューと商品づくりに取り組みます。

(1) 商工会との連携による観光振興

庄内町の観光振興を図っていくためには、商工会と観光協会が連携し、恒常的・日常的な協働の中から魅力ある観光地づくりに結び付けていくことが重要です。商工会との情報共有、観光産業事業者への支援等、両組織のネットワークを通じて地域全体の連帯感や観光地づくりの気運醸成につなげる施策に取り組みます。

アクションプラン

(テーマ) ネットワークの連携強化

【新規】 商工会及び事業者との連携

- ・商工会が提唱している「あいさつ運動」と連携し、町ぐるみで「おもてなし力」の向上を図る。
- ・来訪者が気軽に立ち寄れる店舗の雰囲気づくり、サービスの提供を行うことで誘客を図り、商品等の販売拡大につなげる。
- ・庄内町産の逸品を発掘し、観光客だけでなく住民が知る「機会」を作りだし、「いつでもどこでも買える仕組み」をつくる。
- ・観光拠点施設に「アナログ情報掲示板」を設置し、商工事業者等が自ら情報掲示板を活用して「特産品」等のPRを行い、観光消費を増やす。
- ・商工会及び観光協会相互がもつノウハウやネットワークの強化、連携を図る。

(2) 地域資源を活用した特産品開発

庄内町に行ったら食べたくなる・お土産として買いたくなるような、地域資源を活用したストーリー性にこだわった商品づくりを推進します。

アクションプラン

(テーマ) こだわりの特産品の開発、販路拡大

【継続】 特産品等の開発、販路拡大

- ・商工会や新産業創造協議会等による生産・加工・販売に係る各種セミナーの開催や特産品ブラッシュアップへの支援を図る。
- ・おいしいお米や在来作物をはじめ、農産物等を活用した新たな特産品開発を支援する。
- ・「商店街友好都市との交流に関する基本協定」を締結した東京都港区でのイベントや首都圏等の物産展に参加し、販売・PRに努める。

(3) 宿泊施設の拡充

観光消費額に直結する滞在型観光の拡大に向け、既存宿泊施設の充実や新規宿泊施設の誘致等に観光関連事業者と連携して取り組みます。

アクションプラン

(テーマ) 宿泊施設の拡充で観光収入アップ

【新規】 宿泊事業者との連携

- 新たな観光サービス業（飲食業、物販業、宿泊業、旅行業等）の事業創出・拡大に向けた支援を図る。
- 宿泊事業者との連携を図り、観光客だけでなくビジネス客の集客も図るため、地元企業との提携、スポーツ大会（合宿）とのタイアップなどの働きかけに努める。

【新規】 宿泊施設の整備

- 新たな宿泊施設の積極的誘致検討
- 町施設（農林漁業体験実習館、公民館等）を利用した宿泊施設の整備を図り、宿泊者増につなげる。

(4) 広域での観光連携

オール庄内、オール山形など広域連携エリアにおいて、テーマ、ストーリー性に特化したインパクトのある周遊コースづくりや関係者間のネットワークを構築し、積極的なプロモーション活動に取り組み、広域による誘客を図ります。

アクションプラン

(テーマ) 広域による観光の魅力の相乗効果

【継続】 広域観光連携の推進

- H31 年新潟・庄内デスティネーションキャンペーンを推進する。
- 庄内観光コンベンション協会、日本海きらきら羽越観光圏推進協議会、最上庄内観光連携、月山ジオパーク構想等関係団体との連携を図る。

<戦略4> 訪れたくなる環境づくり

庄内町の魅力を多くの人々に知っていただき、訪問していただくために、様々な手段を組み合わせた情報発信を行うなど、関係機関と連携を図りながら、幅広く観光PR活動を展開します。また、来訪者が容易で快適に楽しむことができるよう二次交通の整備、案内看板の設置等に努めます。

(1) 観光プロモーションの推進

各種団体等と連携を図りながら、マスメディア、SNS、地元タウン誌等の多彩な媒体を活用して効果的な宣伝活動を行います。ターゲット、エリア、テーマに合わせたプロモーションを行います。

アクションプラン

(テーマ) わかりやすく、旬で効果的な情報発信

【拡充】様々な手段を用いた情報発信

- ・マスメディアを活用した継続的な情報発信に努める。
- ・SNSを活用してリアルタイムで旬な情報を発信する。
- ・首都圏をはじめ、PR効果の高い場所での観光キャラバンやプロモーションを行う。
- ・観光施設等の無料Wi-F整備を図る。
- ・ゆるキャラ「庄内町観光ガイド つや美ちゃん」や風の妖精「フーちゃん」を活用してイベントやメディアに出演しPRを実施するとともに、グッズ等の製作・販売も検討する。

(2) インバウンドの誘客促進

外国人観光客の受入態勢を整えるため、ホームページや案内板、パンフレットなどの多言語表示やプロモーション活動、国際観光ガイドの育成に取り組みます。

アクションプラン

(テーマ) 庄内町の知名度アップ 世界に発信！

【拡充】インバウンドの誘客促進

- ・インバウンド向け情報発信（多言語マップ作成、ホームページ作成、SNSによる発信）に努める。
- ・広域連携によるプロモーションを展開する。
- ・国際観光ガイドの育成を図る。

(3) 観光地としての基盤整備

お客様が気持ちよく訪れ快適に町内を回遊できるようにするには、公共的な基盤の整備が不可欠です。広域的な高速交通網の整備は、広域観光連携の推進には重要な要素であり、さらに交通ネットワーク拠点からの2次交通や観光客のニーズに合った交通サービスの充実が求められています。また、観光地への案内表示も含めきれいな公衆トイレなどは観光地の評価を大きく左右します。観光客が地域を訪問しやすい環境づくりに取り組みます。

【新規】アクセスの向上

- ・日本海沿岸東北自動車道や地域高規格道路「新庄酒田道路」の整備促進による庄内町の観光交流人口の拡大を図る。特に庄内町の玄関口となる戸沢立川道路の早期整備促進により、太平洋沿岸・内陸双方からの誘客を図る。

【拡充】公共交通網の整備

- ・JRや町内移動手段（民間バス、タクシー、町営バス等）の利便性の確保に努める。
- ・庄内空港の東京羽田便の5便化、就航機の大形化、アジアからの直行便等の要請に努める。

【拡充】公共施設の整備

- ・観光施設周辺の駐車場、公衆トイレの整備、案内看板の改善・外国語表記、バリアフリー化に努める。

【拡充】観光案内サインの整備

- ・誰もが簡単に目的地に到着できるよう観光案内サイン整備に努める。

【拡充】レンタサイクルの充実

- ・観光拠点施設にレンタサイクル（電動自転車等）を整備し、周遊しやすい環境づくりに努める。

(4) 観光拠点の整備・充実及び組織体制の強化

観光案内所、道の駅や土産物販売等の機能を持つ観光拠点の整備・充実を図り、情報発信機能の拡充に取り組みます。また、観光による地域活性化を図っていくために、地域経済の発展に貢献できる観光協会の組織体制の強化を図ります。

【拡充】観光拠点における情報発信機能の拡充

- ・観光客が必要とする観光情報を主要な観光拠点で総合的かつ容易に入手できる観光案内のネットワーク化を促進する。

【拡充】観光協会の組織体制の強化

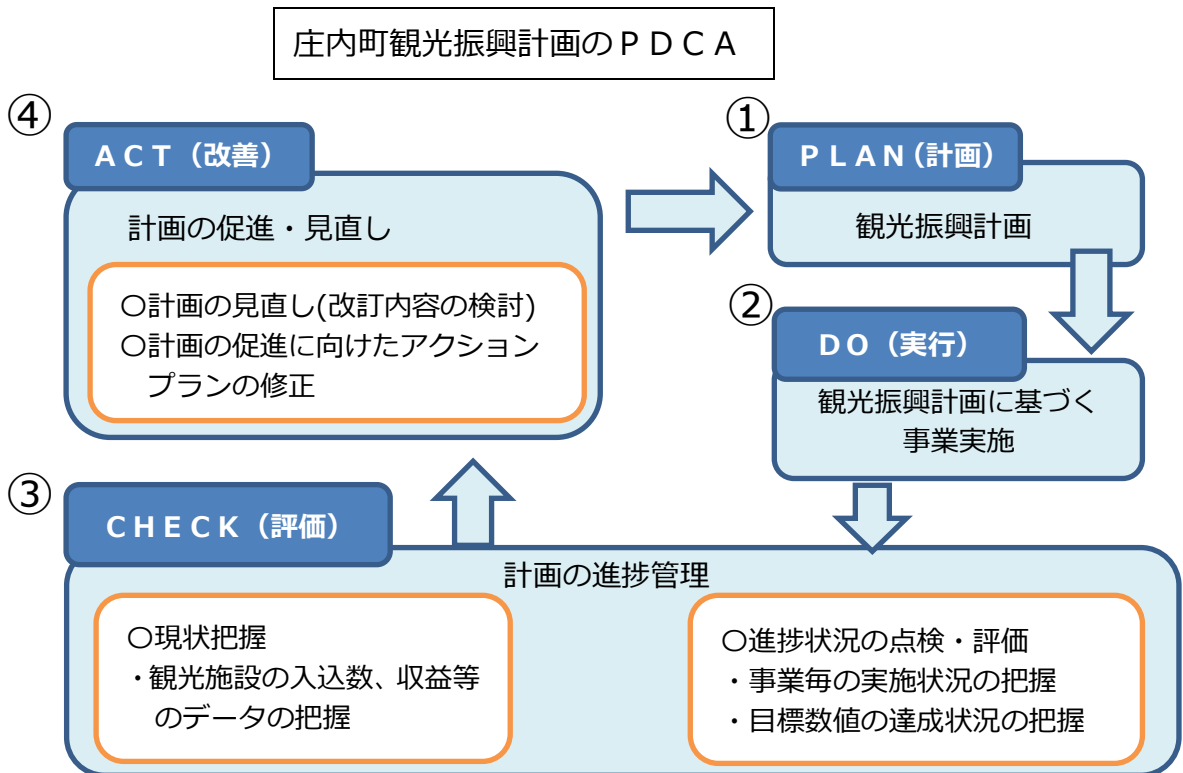
- ・庄内町の観光振興に賛同、協力いただける企業、個人へ観光協会会員への参加を促す。
- ・観光を「産業」として成熟させるために、観光協会の役割、将来像について検討し、観光協会の法人化も視野に入れ、企画・実行体制の強化を図る。

第4章 計画の目標と進捗管理

(1) 計画の目標・点検・評価

本計画に掲げる事業を進めることにより、平成28年度約85万人の観光交流人口を本計画の最終年度で95万人、町総合計画最終年度で100万人とする目標を設定します。また、戦略ごとに進捗をはかる指標（数値）を設定します。

本計画は、平成30年度から5年間を計画期間としており、1年ごとに進捗管理を（現状把握・点検・評価）を行います。進捗管理は以下のようなPDCAサイクルを用い、観光協会が行います。また、本計画については、社会情勢の変化や進捗状況を含めた評価により見直しの必要が生じた場合は、庄内町や観光協会において検討し、見直すこととします。



<来訪内容別指数（数値）>

単位：人

来訪内容	H28年度	H34年度	H37年度	要因
名所・旧跡・資料館等	78,000	80,000	83,000	清川関所・日本遺産等による来訪者増等
温泉・レジャー施設・産直	694,000	774,000	800,000	周遊事業での来訪者増等
体験滞在型観光	600	1,000	2,000	体験メニューの拡充による来訪者増等
祭り・イベント	77,000	80,000	85,000	集客PRによる町外客増等
宿泊者数	7,000	15,000	30,000	宿泊施設の拡充による増等
合計	856,600	950,000	1,000,000	

※平成37年度は庄内町総合計画の最終年度

付 属 資 料

1 SWOT分析

本町の観光を取り巻く現状と課題の抽出について、SWOT分析により、強み（Strength）・弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）の4つに分類分けし、現状の分析と課題の抽出を行います。

SWOT分析：目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人のプロジェクトやベンチャービジネスなどにおいて、外部環境や内部環境を強み（Strength）・弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）の4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つ

<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none">・霊峰月山、立谷沢川など観光素材が豊富（自然）・日本一おいしい米の里（日本トップレベルの米）・モータースポーツを体験できる施設がある・味噌醤油・漬物・酒など県を代表する企業があり工場見学が可能・日本遺産、登録有形文化財など歴史遺産が豊富・ラーメン店、食堂、レストランなど味自慢の飲食店・庄内空港から20分、特急が止まるJR駅、高速バス停がある・高校1校、中学校2校、小学校5校、幼稚園、保育園があり将来の観光人材育成、観光教育に適した環境	<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none">・観光素材はあるが絞り込めていない。・宿泊施設が少なく、観光消費額が期待できない。・農家民泊の整備、収穫体験の受入体制等の遅れから、教育旅行の団体が少ない。・バリアフリーに対応できていない。・両隣に大きな市が位置する通過型観光地・町内全域の2次交通が不十分、自家用車がないと移動が困難・インバウンドの整備の立ち遅れ、観光関係者も住民も不慣れである。・収益性のない任意団体である観光協会の体制脆弱・地域住民の観光に対する認識の低さ
<p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none">・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催・田舎暮らし志向、まち歩き等滞在体験型観光が人気・酒田港に大型クルーズ船が寄港する。・平成31年10月～12月に新潟・庄内デスティネーションキャンペーンがある。・庄内地区に日本遺産が3カ所指定	<p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none">・全国的な少子高齢化や進学、就職に伴う人口流出による消費人口の減少・新庄酒田道路開通による「素通り現象」が引き起こす観光客の減少・周辺観光地の集客競争が激化→観光客の取り合い

【参照】大型クルーズ船

2 庄内町観光振興の課題

観光の現状を踏まえた庄内町の観光振興の課題として、次の5点があげられます。

(1) おもてなしの気運と人材不足

住民にとって観光に対する認識が低く、観光客への対応については成熟していない状況において観光振興を図るために、観光の専門的人材や担い手の確保が不可欠です。また、観光ガイドなど、住民が地域の観光資源を知り、地域に誇りと愛着を持つことにより、心のこもったおもてなしで観光客と接することが期待できます。

(2) 観光消費額の低迷

宿泊施設が少なく、土産品や特産品の認知度も低く、観光客の大半が日帰り観光の状況です。観光消費額の増加のためにも、滞在型観光地への転換、宿泊数の増加は不可欠であり、そのための宿泊施設の整備、滞在メニューの充実等が求められます。

(3) 観光客ニーズへの対応

従来型の団体旅行から個人旅行へのシフト、交通手段の発達による日帰り旅行の増加、見る観光から体験する観光への関心の高まりなど、旅行者ニーズが大きく変化しています。また、観光客の多くが自家用車で訪れており、道路整備を含めた周遊のための公共交通の脆弱性が指摘されます。観光客のニーズが多様化している中で、観光客が見たい、体験したい観光資源の磨き上げや観光客の受入体制の整備が不可欠です。

(4) 観光情報発信のあり方

本町に来訪していただくためには、数多くの観光地の中から選択されるという要件を満たしていることが必要です。しかしながら、庄内町の知名度は低く、本町の魅力や観光資源の情報発信が十分とは言えない状況です。SNSの普及により、個人からの情報発信が消費者の動向などに大きな影響を与えています。また、マスメディアにおいても、地域情報を取り上げる番組が多く放映されていることから、SNSの効果的な活用、マスメディアへの積極的な情報提供をどのように進めるか、さらには、幅広い年代層や多様な観光客に対応した情報発信の方法を検討することが必要です。

(5) 観光推進体制の充実・強化

強固な観光推進体制を築くには、観光事業に携わる個人、団体と行政が互いの役割を認識しながら一体となって取り組む必要があります。現状では、観光関係者による地域の活性化や観光で稼ぐための仕組みづくりや連携が十分にできていません。その中核としての役割を担う観光協会の組織体制の充実・強化を図っていく必要があります。

3 第2次庄内町観光振興計画 主要施策検討資料

第2次庄内町観光振興計画（平成25年～平成29年）では、基本理念「月山山頂の町・清流の恵みを受けた豊かな食文化の里を目指して」に基づき、目標達成に向けた基本方針を設定し、主要施策及び重点プログラムに取り組んでまいりました。

<主要施策>

(1) 地域資源を活かした観光交流機会の創出

①滞在・体験プログラムの開発

i 既存施設の有効活用による滞在プログラムづくり

- ・各施設、各地域の魅力向上による観光ルートづくり
- ・JR や旅行会社等との連携による着地型旅行商品の企画実施

山形デスティネーションキャンペーン H26

駅からハイキング H23～（延 1900 名参加）※H28 から狩川、清川コースを新設
月山山頂の町をいかした月山登山、砂金堀体験 H26～

北月山荘魅力向上（宿泊ヨガH25～、クリスマス・雪遊び体験H25～）

庄内町の小さな旅 H28～ 年間5本催行

ii 体験プログラムの開発

- ・農業農村体験プログラムの整備と教育旅行受入れの推進
- ・各種ツーリズム体験プログラムの整備
- ・祭り、伝統芸能を活用した体験プログラムづくり

庄内町グリーン・ツーリズム推進協議会の設立 H26

教育旅行の受入れ H28（37名）、H29（87名）

農業体験や伝統文化を活用した庄内町の小さな旅

iii 既存イベントの見直しと新たなイベントの創出

- ・地域住民、商店を中心とした既存イベントの見直しや新たなイベントの創出と支援

秋まつり一本化（しょうない秋まつり） H28～

月山龍神マラソン H28～

観光協会後援事業の追加（龍神月山、回天の道、戸沢村・庄内連携事業、
SHOWNAIGHT）

②特産品、土産品開発の推進と販路拡大

i 庄内町の名産を味わう場面づくり

- ・飲食店との連携による地産地消メニューの提供
- ・一店逸品、たべぶらパスポート等食を活用した街中巡り
- ・産直、農家レストラン、農家民宿との連携
- ・庄内町特産品フェアの開催と庄内町ファンの育成、拡大（首都圏、友好町）

一店逸品運動 H18～ 食べぶらパスポート事業 H24～
北月山荘「やまぶどうの会」田舎料理提供 H22～（山の芋料理 H28～）
白金七夕まつり、港区交流物産展（H21～）
港区商店街友好都市との基本協定締結 H29
羽越本線特急「きらきらうえつ」での産直列車 H27～

ii 行事や暮らしを支えた伝統食の継承

- ・レシピ集作りと材料のセット販売
- ・料理講習会の開催レシピ集づくり

米コンでの消費者まつり H20～
全国グリーン・ツーリズム大会庄内町分科会での郷土料理提供及びレシピ集配布 H27

iii 新しい特産品の開発

- ・新特産品、名物料理コンクールの開催
- ・土産品等開発補助金制度の強化
- ・6次産業化各種事業との連携・アイデアの公募

庄内町商業振興支援事業補助金（物産展、土産品/地場産ビール）
一店逸品運動 H18～
新産業創造協議会主催の土産品コンテスト「亀じいの玉手箱」販売

(2) 観光推進体制の整備

①人材の発掘と育成

i 町内の名人・達人の発掘

- ・アイデアマン、匠、伝統芸能、体験のプロ等の名人、達人の発掘とグループ化

砂金掘りやイワナ養殖の継承
榎島ほうきと手作りの会 H22～ 由右工門ほうき伝承の会 H26～

ii 観光ボランティアガイド等の育成

- ・観光ボランティアガイドの拡充
- ・定期的な研修や地域検定の実施等によるスキルアップ

羽黒山修験道を守る会 H18～ きよかわ観光ガイドの会 H21～
余目観光ガイドの会 H24～
インバウンド観光ガイド育成研修会 H29

iii 人材育成の機会づくり

- ・地域再発見のための写真展や自然体験教室、自然塾の実施
- ・伝統芸能等披露する場の提供

庄内空港での写真展 H25～
クボタ地球小屋自然体験 H25、H26

②観光協会の組織強化

i 組織強化策の推進

- ・ 専門部会制の導入による検討と実行
- ・ 専門員、コーディネーター等の配置継続
- ・ 町外、県外在住者によるファンクラブの設置等ネットワークづくり

観光振興計画アクションプラン策定部会 H27 白金プラザ会 H21～
観光専門員2名配置 H28～ 地域おこし協力隊2名配置 H28～

ii 観光協会と関係団体との連携

- ・ スポーツ、子育て、健康づくり事業との共催
- ・ 町内宿泊推進のための旅館関係者との連携と情報発信
- ・ 観光や町づくりに関わるグループ・団体との連携と情報の共有

中心市街地まちづくり協議会・おもしろちゃあまるめ Show 店街 H28～
風車市場、あまるめ駅前マルシャ H29～、駅前ふれあい朝市～H28

③情報発信の強化

i 情報発信の収集の強化

- ・ 観光ホームページ、ブログ等の活用と充実
- ・ キャラクターやロゴマーク等によるイメージ戦略
- ・ お宝マップの作成と情報発信
- ・ 観光協会への観光情報の一元集約
- ・ 友好町「南三陸町」への情報発信強化
- ・ マスメディアへのプレスリリースの充実

デジタルサイネージ（観光案内看板）の設置・観光アプリ H26～
観光 HP リニューアル「Navi 庄内」H27～ ブログ観光大使つや美 H22～
Facebook H25～ 広報南三陸「庄内の風」 情報発信シート
インスタグラム H29～ 観光PV作成 H29 ゆるキャラ「つや美ちゃん」製作 H29

ii 広域観光の推進

- ・ 庄内観光コンベンション協会や日本海きらきら羽越観光圏等との連携
- ・ 首都圏にむけた庄内地域全体での誘客促進
- ・ 庄内地域広域観光ルートへの参入
- ・ JR 山形デスティネーションキャンペーン、月山新八方十ロプロジェクト、庄内南部・北部定住自立圏等、広域観光事業との連携

日本海きらきら羽越観光圏事業 H21～（首都圏駅貼りポスター H25～）
庄内観光コンベンション協会や観光圏による首都圏観光プロモーション H23～
山形デスティネーションキャンペーン H26
陸羽西線開業 100 周年記念事業 H26
月山新八方十ロプロジェクト H25～H27
月山ジオパーク構想（インバウンドツアー） H27～

(3) 観光物産交流拠点の整備

① 観光拠点機能の整備

i 新産業創造館に庄内町情報館を設置

- ・ 町内観光ルート、施設、飲食店、宿泊施設、二次交通等の紹介
- ・ 特産品、土産品のPRと販売促進
- ・ 観光レンタサイクルの運営

新産業創造館庄内町情報館 H26～ 観光レンタサイクル運営 24～
余目駅内ホットホームでの観光案内 道の駅しょうないでのガイドの会観光案内

ii 庄内地域観光のターミナル化

- ・ 新幹線延伸や高規格道路早期完成など高速交通網の整備促進
- ・ レンタカー、タクシー等の二次交通施策の開拓

地域高規格道路「余目酒田道路」H27～一部開通
東京庄内間高速バス停留所（余目駅前）H23～
大阪庄内間高速バス停留所（余目駅前）H29～

② 観光交流施設の整備

i 既存施設の整備

- ・ 清川歴史公園基本構想の推進
- ・ 国際観光に対応した整備
- ・ 案内看板の充実

清川歴史公園構想（第一期）基本設計 H28 測量・実施設計 H29
楯山公園案内看板設置 H27

ii 月山山頂の町を活かした観光推進

- ・ 月山登山、羽黒古道・回天の道トレッキングコースの整備とPR
- ・ 北月山荘及び周辺施設の活用

月山新八方十口プロジェクト（北月山登山口）H23～
羽黒古道 H18～ 回天の道 H22～
北月山荘平日宿泊ネット割引H26～
月山登山ツアー、温泉ツアーでの宿泊活用 H23～

iii 町のプロジェクトとの連携

- ・ 新産業創造館と駅前周辺整備事業
- ・ 八幡スポーツ公園整備事業
- ・ まちなか温泉整備事業

新産業創造館 H26～ まちなか温泉 H26～
八幡スポーツ公園 H22～ 道の駅しょうないH28～
清川歴史公園構想H28～

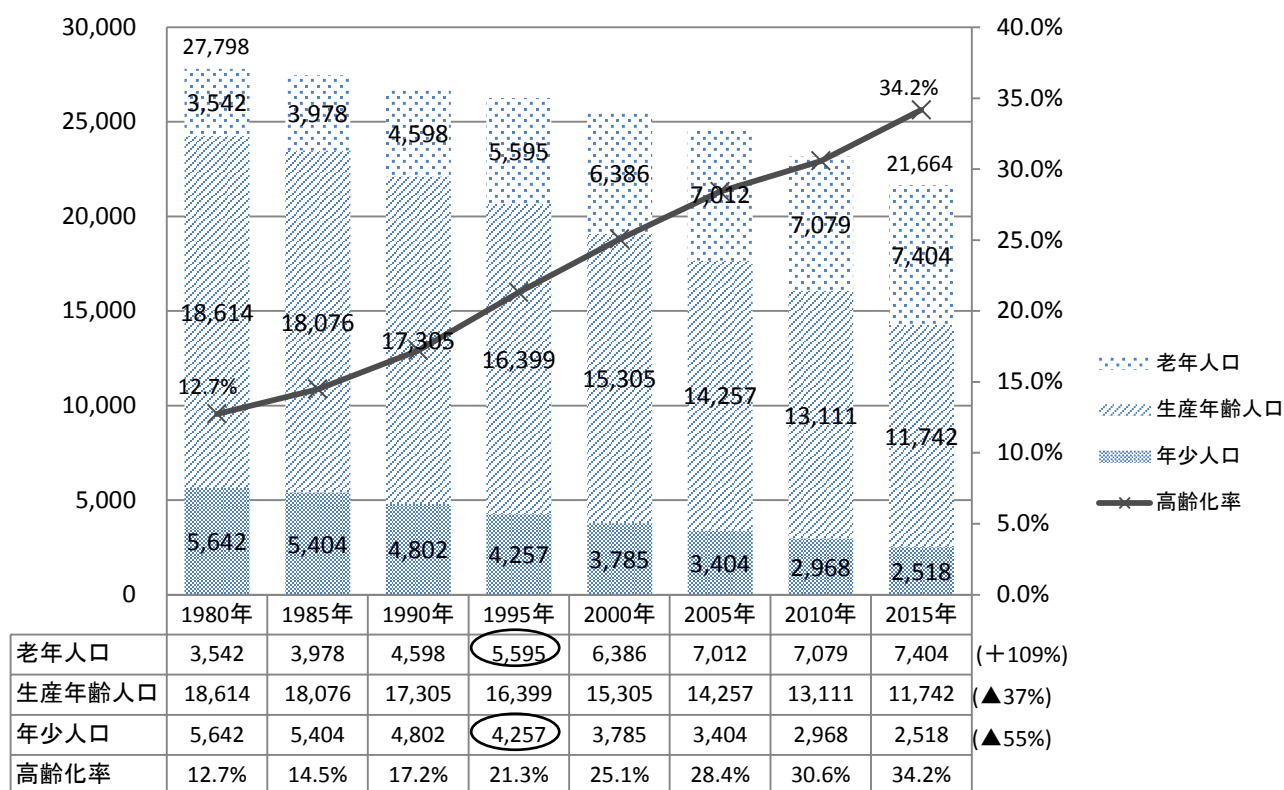
4 観光を取り巻く社会情勢

(1) 少子高齢化、人口減少社会の到来

日本の総人口は平成 22 年の 1 億 2800 万人をピークに減少傾向にあり、今後 50 年間で 4000 万人以上の減少が見込まれています。

本町の人口推移の状況は、1980 年（昭和 55 年）当時の人口は 27,798 人、2015 年には 21,664 人と 6,134 人、約 22%減少となっています。年齢 3 区分別人口をみると、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は 1980 年（昭和 55 年）以降一貫して減少傾向にあり、35 年間で約 37%の減少となりました。年少人口（0 歳～14 歳）については、さらに大幅な減少傾向で約 55%の減少となっています。一方で老年人口（65 歳以上）は増加し、2015 年の老年人口は年少人口の約 3 倍となっています。

庄内町年齢3区分別人口と高齢化率の推移

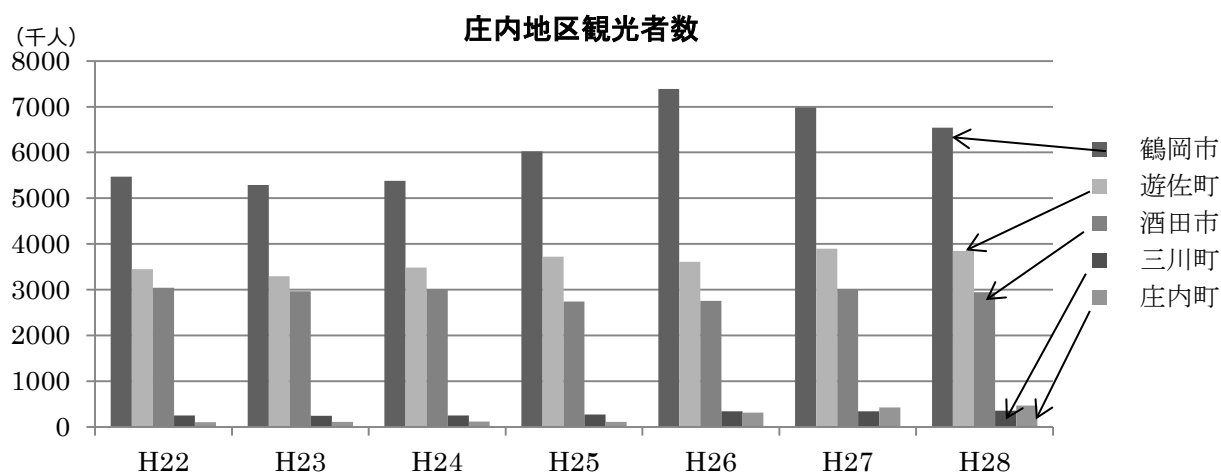


資料：国勢調査

老年人口 > 年少人口
(平成 7 年)

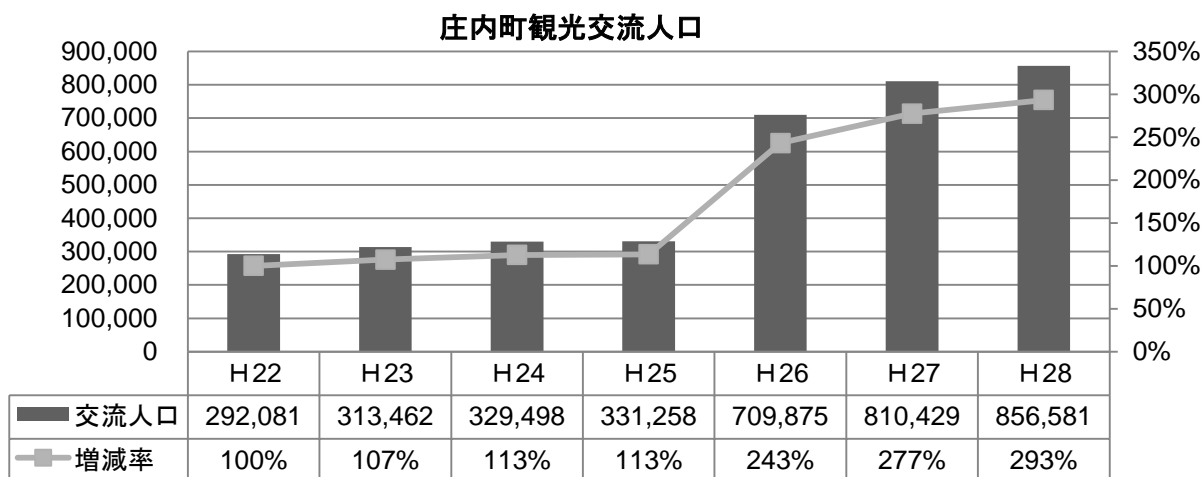
(2) 庄内地区の観光者数

山形県の平成 28 年度の観光者数（延べ人数）は 4,581 万人で前年度より約 91 万人増、率にして前年比 102%となり、過去最高となりました。庄内地区においては、前年比で 3.4%減の 1,415 万人の入込み数となっています。これは山形県全体の観光者数の 30.9%を占め、このうち、シェアは小さいものの、庄内町は前年比 10.5%増の 46.8 万人と大きく増加しています。（※山形県観光者数調査より）



出所：山形県観光者数調査

本町独自で集計している観光交流人口調査によると、平成 26 年にオープンした 6 次産業化の拠点である新産業創造館「クラッセ」やギャラリー温泉「町湯」、八幡スポーツ公園、道の駅「しょうない」など、集客力のある施設整備等により、観光・交流人口は年間 85 万人に達しています。しかし、宿泊者数は依然少なく、本町を訪れる観光客は日帰り客がほとんどを占めているほか、数多くの地域資源も、観光客が年間を通して繰り返し訪れる魅力ある観光・交流資源として十分に活用されているとはいえない状況にあります。また、交通環境の充実による行動範囲の広域化もあり、町内における観光客の滞在時間は短縮し、地域経済への波及効果は限定的となっています。



庄内町観光交流人口					
分類	名称	H25入込数	H26入込数	H27入込数	H28入込数
名所・旧跡	白狐山光星寺	2,840	3,189	2,896	2,679
	楯山公園	4,236	3,464	4,131	3,907
	熊谷神社	2,837	2,405	2,663	2,847
	清河神社	2,152	1,765	1,721	1,459
	余目八幡神社	20,000	20,000	20,000	20,000
	北館神社	1,850	1,900	1,900	1,900
	歓喜寺	700	700	650	650
	御諸皇子神社	500	450	450	450
	熊野神社	200	100	100	100
	霊輝院(三ヶ沢の乳イチョウ)	100	100	30	30
	計	35,415	34,073	34,541	34,022
美術館・資料館等	響ホール	36,063	44,012	41,018	35,907
	亀ノ尾の里資料館	2,069	2,058	1,990	1,964
	歴史民俗資料館	220	174	205	15
	清河八郎記念館	2,152	1,765	1,721	1,459
	内藤秀因水彩画記念館	3,859	4,566	4,659	4,694
	砂防資料館	161	231	249	241
	耐雪書道美術館	30	8	30	30
	計	44,554	52,814	49,872	44,310
体験・レジャー	風車村	33,592	33,578	36,515	31,381
	庄内ゴルフ倶楽部	21,880	22,961	22,495	21,296
	北月山荘	12,589	13,146	14,151	12,372
	農林漁業体験実習館	1,684	1,734	1,410	2,267
	大中島自然ふれあい館 森森	2,698	2,317	2,150	2,018
	カートソレイユ最上川	2,928	1,928	2,156	4,474
	セーフティパーク最上川	500	500	500	500
	北月山ケビン・キャンプ場・ロッジ	250	296	305	443
	新産業創造館「クラッセ」		171,160	210,510	190,820
	ギャラリー温泉「町湯」		50,226	110,590	108,571
八幡スポーツ公園		170,073	175,006	184,601	
	計	81,121	467,919	575,788	558,743
産直施設等	あまるめホッとホーム	33,085	17,556	14,362	14,605
	道の駅しょうない 風車市場	21,253	21,286	35,605	106,348
	駅前ふれあい朝市	1,300	1,000	900	900
	やまゆり市場	360	360	350	
	やまぶどう(北月山荘)	10,661	13,549	13,801	12,791
	計	71,659	53,751	65,018	134,644
祭り・イベント	植木金魚まつり	18,000	8,000	15,000	16,000
	余目まつり	13,000	13,000	13,000	13,000
	しょうない秋まつり	15,000	17,000	17,000	18,000
	夏宵まつり	9,000	8,000	7,000	8,000
	たちかわ秋まつり	7,000	6,000	5,000	0
	楯山公園桜まつり	3,000	7,000	6,000	6,500
	龍神月山	2,000	2,000	2,000	2,000
	最上川立谷沢川秋の味覚まつり	1,505	1,373	250	0
	やままつり	1,000	1,000	1,000	1,000
	キャンドルナイトinしょうない	400	250	50	200
	月の沢龍神冬まつり(旧スノーアートフェスティバル)	2,000	3,000	2,500	2,000
	月山龍神マラソン				1,800
	エコランド(旧エコツアー(環境塾))				1,085
	立谷沢川流域交流事業	4,002	4,559	3,409	3,462
	JICA青年研修受入事業	12	12	11	48
	日本一おいしい米コンテスト決勝大会	1,400	1,400	1,400	1,400
	一店逸品体験ツアー	20	65	18	20
	着地型、ガイドツアー	791	1,001	717	552
	たべぶらパスポート	14,985	19,909	2,430	2,550
	全国風サミットin庄内		0	919	0
全国グリーン・ツーリズムネットワーク山形大会		0	100	0	
月山インバウンドジオツアー		0	285	75	
	計	93,190	93,643	78,089	77,692
宿泊施設	余目ホテル				
	民宿ふじ				
	民宿ふきのとう				
	長村旅館	5,449	6,645	7,121	7,170
	ビジネスホテル泉				
	北月山荘				
平成館					
民宿源助					
	合計	331,388	708,845	810,429	856,581

(3) 庄内圏域の宿泊需要

庄内圏域の宿泊者数（入湯ベース）はおよそ 54 万人で推移しています。さらに、ビジネスホテルの宿泊者も相当数いることが想定できることから、実際にはこれ以上の宿泊需要が見込まれます。このうち、庄内町の宿泊者数は順調に伸びており、庄内地域内でのシェアも拡大しておりますが、圏域全体の宿泊需要に対し、庄内町のシェアは他市町村に比べてまだまだ小さい状況です。庄内町議会が行った宿泊動向調査によれば、ビジネスで来町した人のおよそ 8 割が町外に宿泊している一方、町内に新たな宿泊施設ができた場合、およそ 7 割が「利用する」としております。したがって、条件を整えることによって町内への宿泊需要を喚起し、他市町に流れている宿泊者を獲得できる可能性もあります。

庄内の宿泊者数の推移（入湯税ベース）

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
鶴岡市	478,873	476,606	493,969	466,719	488,724	482,456
酒田市	28,693	29,808	30,641	29,213	28,631	26,691
三川町	12,105	12,136	12,098	12,365	11,569	11,640
遊佐町	18,629	17,783	16,635	16,550	15,154	16,176
庄内町	973	1,344	1,320	1,350	1,726	2,660
圏域計	539,273	537,677	554,663	526,197	545,804	539,623

出所：山形県庄内総合支庁提供資料

宿泊動向アンケート（抜粋）

◆宿泊需要がある場合の宿泊先

町内	酒田市	鶴岡市	三川町	遊佐町	その他
18%	37%	41%	1%	1%	2%

◆町内に新たな宿泊施設ができた場合の利用

- ・利用する（35社：73%）
- ・利用しない（13社：27%）

出典：庄内町産業建設常任委員会調査報告書

(4) 庄内地区の外国人旅行者受入数動向

山形県によれば、平成 28 年の外国人旅行者の延べ人数（宿泊者数と立寄者数の合計）は 127,731 人、庄内地区では 23,201 人で、前年を 27.2%（県全体の伸び 31.9%）上回る大きな伸びを示し、かつ、県内におけるシェアも 18.1%になりました。県では、平成 31 年に延べ宿泊者数 100 千人達成（平成 27 年比 175%）を目標にしています。仙台空港のゲートウェイ化・国際便の増便・庄内へのシャトルバス運行等、目標に向かって様々な施策が進行中です。

※2016 年 訪日外国人旅行者数 24,039 千人

【参照】ゲートウェイ化

受入地域別内訳（宿泊者数と立寄者数の計）
 （平成 28 年外国人旅行者県内受入実績調査結果／山形県）

	合計	台湾	韓国	香港	中国	アメリカ	オーストラリア	タイ	シンガポール	マレーシア	その他
村山	63,385	40,200	5,595	3,193	4,976	1,626	1,294	4,203	1,785	495	5,018
最上	12,600	9,786	1,290	231	172	138	62	187	73	75	586
置賜	6,582	3,624	198	223	546	434	102	202	385	60	808
庄内	23,201	8,049	3,255	527	3,264	1,070	105	411	199	55	6,266

調査対象期間：平成 28 年 1 月～12 月

調査対象施設：県内宿泊施設（従業者数 10 人以上）

(5) ICT の飛躍的な発展

スマートフォンなどの各種情報端末の普及によって、観光情報を始めとした様々な情報の入手が瞬時に可能となり、Facebook やインスタグラムなどの SNS など旅行者との間で双方向のコミュニケーションが図れるようになりました。スマートフォンは国内において保有率が 6 割（64.2%：総務省「H26 年通信利用動向調査」）を超え、また、スマートフォンの普及に合わせて SNS の利用も急速に進んでおり、2010 年末に 38.8%であった SNS の利用率は、2016 年末には 69.3%（(株)ICT 総研「SNS 利用動向に関する調査」）となりました。

また、旅行に行くにあたって参考する情報源をみると、平成 20 年度以降はインターネットが最も多くなっています。家族・友人の話、パンフレット、ガイドブックなどの紙媒体も引き続き主要な情報源であるものの、インターネットの重要性は高まる一方となっています。

※情報通信技術（Information and Communication Technology）

(6) 交通機関・道路の整備

庄内地域の公共交通機関は広域交通として、JR 羽越本線・陸羽西線の鉄道と東京・大阪・仙台・山形と庄内を結ぶ高速バス、庄内空港による空路が整備され、地域内の交通を民間事業者や自治体による路線バスやデマンドタクシーが受け持つ構成となっています。これらの公共交通は、通勤・通学等の日常生活を支える重要な社会基盤であり、また、年間 1,400 万人の観光客が訪れる庄内地域にとって観光産業を支えるものとなっています。

また、日本海東北自動車道や地域高規格道路「新庄酒田道路」の整備により、県内及びその地域へのアクセスが飛躍的に改善し、交通事情の緩和や移動時間の短縮によって地域経済の振興が図られるほか、「庄内と内陸」、「仙台圏、新潟圏」との交流拡大等山形県の一体的な発展に大きな効果をもたらすことが期待されます。

5 策定経過

開催日時	検 討 内 容
平成 29 年 7 月 7 日	第 1 回策定部会 <ul style="list-style-type: none"> ・前期観光振興計画の概要 ・事業実施状況と観光を取り巻く現状 ・策定の基本方針
平成 29 年 8 月 23 日	第 2 回策定部会 <ul style="list-style-type: none"> ・講話「これからの庄内町に必要なこと」 近畿日本ツーリスト 東北地域誘客インバウンドセンター所長 ・グループ討議「庄内町観光の目玉は何か」
平成 29 年 9 月 20 日	第 3 回策定部会 <ul style="list-style-type: none"> ・講話「これからの庄内町観光に必要なこと」 庄内町長 ・グループ討議「庄内町観光の目玉は何か」
平成 29 年 11 月 10 日	第 4 回策定部会 <ul style="list-style-type: none"> ・庄内町観光振興計画素案
平成 29 年 11 月 17 日	観光協会理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・庄内町観光振興計画素案の意見徴収
平成 29 年 12 月 1 日	第 5 回策定部会 <ul style="list-style-type: none"> ・庄内町観光振興計画素案の取りまとめ
平成 29 年 12 月～	役場各課との調整、意見徴収 <ul style="list-style-type: none"> ・庄内町観光振興計画（案）について
平成 30 年 1 月～	パブリックコメントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・意見 2 件
平成 30 年 2 月	観光協会理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・庄内町観光振興計画(案)の承認
平成 30 年 3 月	町関係機関、住民、事業者等への周知 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興計画ダイジェスト版の全戸配布

6 観光振興計画策定部会委員名簿

	区 分	氏 名	所 属
1	庄内町観光協会	阿部 武敏	観光協会 会長
2		齋藤八重子	きよかわ観光ガイドの会 会長
3		佐藤 等	庄内町余目観光ガイドの会
4		増井 昭哉	JR東日本 酒田駅
5		川村 英子	庄内町商工会 女性部 副部長
6		原田 眞行	庄内町商工会 青年部
7		佐藤 卓郎	余目町農業協同組合 営農部販売係主任
8		阿部 健一	庄内たがわ農業協同組合 監事
9		渡部菜穂子	(株)イグゼあまるめ 統括部長
10		日下部耕平	庄内町国際交流協会 副会長
11		小松 広幸	地域おこし協力隊 (農林課)
	庄内町関係 係長等	樋渡 真樹	情報発信課 企画調整係長
		齋藤 弘幸	情報発信課 ふるさと応援係長
		山本 武範	農林課 農林水産係長
		阿良佳代子	社会教育課 文化スポーツ推進係長
		渡部 桂一	商工観光課 課長補佐
		中野 正樹	// 商工労働係長
		齋藤 貴幸	// 立川地域観光振興係長
	事務局	佐々木平喜	商工観光課 課長
		田村 末吉	商工会 事務局長
		松澤 良子	商工観光課 課長補佐兼観光物産係長
		佐藤 陽子	// 観光物産係主任
		難波 琢磨	// 主事
		伊藤 典子	// 主事
		パソニック 多愛可	観光協会 観光専門員
		齋藤 幾久	// 観光専門員
		竹嶋 碧	地域おこし協力隊
		栗原 麗人	//

7 参照/用語解説

用語	解説
ビジット・ジャパン	外国人旅行者の訪日を飛躍的に拡大させることを目的に、国と地方公共団体、民間が共同で取り組んでいるキャンペーン。
明日の日本を支える観光ビジョン	国では平成28年3月に観光を地方創生の成長戦略の柱として、「観光先進国」の実現にむけて、「3つの視点」と「10の改革」で強力に取り組む施策である。
おもてなし	客に対して心のこもった待遇やサービスをすること。四国お遍路におけるお接待など、奉仕の精神に基づくものが日本の文化として知られる。
五感	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の5つの感覚のこと。人の感覚全体を指すために「五感」という表現が用いられる場合もある。体験型観光に求められるものは「見る観光から、五感で体験する観光」へのニーズが高まっている。
郷土意識	郷土は人々が生まれ育った土地であるが、その土地で自分の人格や個性が形成されたという自覚に基づく感情のこと。「郷土愛」は自分の生まれ育った場所を大事にしようとする心のこと。
日本遺産	地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定する。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。 <庄内地域の日本遺産登録> ・自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」～出羽三山 ・荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～ ・サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
清川歴史公園整備基本計画	平成24年に清川地区振興協議会を中心に「清川歴史公園基本構想」が検討され、町に提言されたことにより「清川歴史公園整備基本計画」を策定した。この計画では、文化的な景観として歴史資源の保存・復元により「歴史の里」の風格と魅力的な街並み整備を図るとともに、まち歩きや歴史散歩等で観光交流人口を増加し、神社・仏閣や商店等を含む地域活性化を図ることを目的とする。 I期工事 清川関所、船見番所の復元 II期・III期工事 複合施設建設、御茶屋建設
ニューツーリズム	従来の物見遊山的な旅行に対して、これまで観光資源としては気づかれていなかった地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態。活用する観光資源に応じてグリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム、インフラツーリズム等があげられ、地域特性を活かしやすいことから、地域活性化につながるものと期待されている。
登録有形文化財	平成8年の文化財保護法改正により創設された文化財登録制度に基づき、文化財登録原簿に登録された有形文化財のこと。 庄内町登録有形文化財（建造物）/六洲砂防堰堤、瀬場砂防堰堤

グリーン・ツーリズム	農山漁村地域に滞在し農林漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ余暇活動のこと。
民泊	民泊とはかつては農村や漁村の民家などに宿泊・滞在することを指していたが、インターネットの仲介サイトの出現により、観光客に個人宅の一部や空き別荘、マンションなどを有償で貸し出すことを指すようになってきている。民泊は訪日外国人観光客の増加と宿泊施設の不足というテーマの中で、新たな成長産業の一つとしてあらゆる業界から注目を集めている。
域内調達率	「観光収入＝観光客数×消費単価×域内調達率」であり、それらの要素をバランスよく高めることが大切である。このうち「域内調達率」は域内で必要なもののうち、域内から調達可能な割合である。域内調達率の向上には「地元で必要な量をいかに地元で賄うか」という地産地消の考え方が必要である。
デスティネーションキャンペーン	JRグループと自治体、地元の観光事業者等が共同で実施する大型観光キャンペーンのこと。 Destination (目的地・行先) と Campaign (宣伝戦) の合成語。「DC」と略される。
SNS	「Social networking service」個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。
インバウンド	本来の意味は「入ってくる、内向きの」という意味の英語。観光の中では、外国人旅行者を自国へ誘致すること。海外から日本へ来る観光客を指す外来語。
Wi-Fi	パソコンやテレビ、スマホ、タブレット、ゲーム機などネットワーク接続に対応した機器を、無線(ワイヤレス)でLAN(Local Area Network)に接続する技術のこと。
大型クルーズ客船	乗客に船旅(クルーズ)を提供するための船旅船で宿泊設備は勿論、レストランやバー、フィットネスクラブやプールなどの設備を備え、長期間の船旅を楽しめる。クルーズ船による海外旅行は世界的なブームになっており、年々利用者が増大している中で、訪日外国人観光客の誘致に向け、様々な取組みを行っている。庄内地域では、「プロスパーポートさかた ポートセールス協議会」を中心に酒田港への外航クルーズ船啓発事業を展開している。
ゲートウェイ化	ハブ空港が比較的中心地にあり放射線状に路線が広がっているのに対し、ある地域の比較的端に位置しており、他の地域からその地域に飛んでくる場合、乗継の入口になる空港のこと。仙台空港を国内外からの東北の空の玄関口として、地域経済へ期待されている。
ICT	「Information and Communication Technology」(情報通信技術) 情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称
デマンドタクシー	ドア・ツー・ドアの送迎を行うタクシーに準じた利便性と、乗合・低料金というバスに準じた特徴を兼ね備えた移動サービス。庄内町では立川地域の三ヶ沢から狩川駅、出川原から狩川駅のそれぞれの区間を運行する予約制の乗合タクシーである。



庄内町観光ガイド つや美ちゃん

山形県庄内町・庄内町観光協会
〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字町 132-1
TEL 庄内町 0234-43-2111 庄内町観光協会 0234-42-2922